

授業科目名 (英訳)	人・自然連環論 Mutual Linkage between Human Activity and Nature					担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 教授・山敷 庸亮				
配当学年	1 回生	単位数	2	開講年度 開 講 期	H27 前期	曜時限	月/3	授業形態	講義	使用言語	主に英語
〔授業の概要・目的〕											
<p>人間の(Anthropogenic)活動と、自然の(Natural)応答との相互連環について、現在存在する理想的な形態について学び、その重要性について講義する。また、自然とは何か、について、自然とは「地球上の現象である」という定義を学び、身近な惑星と地球との違いについても学ぶ。さらに、生命のふるさとである森林から、人間の居住空間である里、そして沿岸域から海洋生態系へとつながる森・里・海の相互連環について、流域における水・物質循環の特性と、森林や沿岸域での生態系保全を踏まえて、森・里・海のそれぞれの構成要素がその機能を発揮し、里に代表される自然と調和した文明空間と生態系保全の両立への布石となる学問を探究する。この連環の学習を通じて、人間活動と自然との相互連環のあるべき姿について模索する。</p>											
〔到達目標〕											
<p>我々の生命と我が国の自然を支える海洋生態系が、森林システムからの絶え間ない物質供給により維持されていることに対する認識と、人間の居住地域である里が有する歴史的機能と、里が大きく発展した流域における都市の開発やそれにもなう汚染がこれらの生命循環に致命的な影響を与える危険性に対する自覚と、これらをふまえて今後我々が認識してゆかねばならない森・里・海の相互連環システムに対する理解を講義毎の小レポートをもとに受講者との討論を交えながら、深めることを目標とする。</p>											
〔授業計画と内容〕											
<p>【第 1 回】 人間活動(Anthropogenic)と自然活動(Natural)について</p> <p>【第 2 回】 自然(Nature)とは＝地球における人間活動(Anthropogenic)機能</p> <p>【第 3～4 回】 森・流域における森林の機能</p> <p>【第 5～8 回】 里・自然と調和した人間空間</p> <p>【第 9～10 回】 海・すべてを包容する沿岸域・海洋生態系</p> <p>【第 11 回】 栄養塩と生命の連環-森林における栄養塩供給と河川生態系</p> <p>【第 12 回】 淡水・海水の連環-感潮領域における生態系</p> <p>【第 13 回】 食の連環-水産資源における森・里の役割・鉄の輸送に着目して</p> <p>【第 14 回】 人と自然の連環--人工構造物の役割と問題点</p> <p>【第 15 回】 まとめ</p>											
〔履修要件〕											
特になし											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
講義毎の小レポートと期末レポート、講義の理解度と達成度を期末レポートで評価											
〔教科書〕											
資料の送付											
〔参考書等〕											
森里海連環学への道: 田中 克											
〔授業外学習（予習・復習）等〕											
講義中に配布した資料や、紹介したビデオなどを学習する。											

【その他（オフィスアワー等）】

日本人が本来持ち合わせた自然と調和した文化を再び学び取ってほしい。

オフィスアワーは事前にメールにてアポをとる。yamashiki.yosuke.3u@kyoto-u.ac.jp